

平成 30 年度 第2次総合計画 施策マネジメントシート
(平成 29 年度の実績評価)

作成日 平成 30 年 7 月 20 日
更新日 平成 年 月 日

総合計画体系	政策No. 4	政策名	心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成	施策主管課	教育委員会 生涯学習課
	施策No. 19	施策名	生涯学習の振興	施策主管課長名	秋山 まさ美
施策関連課名			市立図書館、市立美術館		

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) *人や自然資源等	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)
市民 公民館、生涯学習センター、図書館、美術館 対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	学習テーマを持ち、誰でも学べる。 学習の成果を活用することができる。 スポーツ・レクリエーション活動が習慣化され、健康増進に繋がる。 利用環境やサービスの充実により、学習やスポーツ施設の利用者が増加する。 意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
① 対象指標	ア 市人口	人	見込み値			72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
			実績値	72,963	72,715	72,305	72,018	71,880		
	イ 生涯学習センター等の施設数	箇所	見込み値			3	3	3	3	3
			実績値	3	3	3	3	3		
	ウ		見込み値							
			実績値							
② まちづくり指標	A 生涯学習を実践していると回答した市民の割合	%	目標値			29.0	31.0	33.0	35.0	37.0
			実績値	27.8	33.1	29.0	31.2	29.4		
	B 図書館レファレンスサービス(調査相談)件数	件	目標値			2,060	2,120	2,180	2,240	2,300
			実績値	1,961	3,939	5,488	5,906	6,488		
	C 美術館ワークショップの参加者数	人	目標値			1,300	1,325	1,350	1,375	1,400
			実績値	1,269	2,543	1,571	1,999	1,891		
	D スポーツ・レクリエーション活動を習慣化していると回答した市民の割合	%	目標値			37.0	39.0	41.0	43.0	45.0
			実績値	35.7	37.4	34.3	33.0	34.1		
	E		目標値							
			実績値							
まちづくり指標設定の考え方		A:生涯学習活動の成果を示す。 【市民アンケートの『趣味や娯楽なども含めて、生涯学習活動を行っていますか』において、「行っている」「どちらかというに行っている」と回答した人の割合】 B:図書館の利用促進活動の効果を示す。 【レファレンスサービスの回答件数】 C:美術館の利用促進活動の効果を示す。 【美術館ワークショップの参加者数】 D:スポーツ普及活動の成果を示す。 【市民アンケートの『習慣的にスポーツやレクリエーション活動を行っていますか』において、「行っている」「どちらかというに行っている」と回答した人の割合】								
目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)		A: 現行値から5年間で10%増加を目標に設定 B: 図書館利用やサービスの拡大を目指す、5年間で約400件(年間約3%)の増加を目標に設定 C: 5年間で約200人の増加を目指す D: 現行値から5年間で約10%増加を目標とした数値を設定								

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数	83	78	78	61	58	69	
関連事業予算額(単位:千円)	675,151	815,369	447,605	756,018	804,139	1,550,116	
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	83,300	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0
	地方債	222,500	272,400	17,100	256,500	345,500	864,900
	その他	53,230	16,210	29,514	29,839	27,299	26,568
	一般財源	399,421	443,459	400,991	469,679	431,340	658,648

4 評価結果(施策の有効性評価)

① 目標達成度評価 (目標値と実績値との比較)

- 目標値より高い実績値だった
- 目標値どおりの実績値だった
- 目標値より低い実績値だった

※左記の理由

指標Aの生涯学習を実践している市民の割合は目標値を下回ってしまった。
 指標Bの図書館レファレンスサービス件数は、職員による利用者への積極的な対応を行ったため、目標値より高い実績値となった。
 指標Cの美術館ワークショップ参加人数は改修工事のため2月3月休館したが割合としては上回っている。
 指標Dのスポーツレクリエーションを習慣化している市民の割合は、昨年度より上がったが目標値には達していない。

② 時系列比較(基本計画現況値からの推移)

- 成果がかなり向上した
- 成果がどちらかと言えば向上した
- 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)
- 成果がどちらかと言えば低下した
- 成果がかなり低下した

※左記の理由

指標Aの生涯学習を実践していると回答した市民の割合は、平成27年度29.0%で28年度31.2%29年度29.4%と多少の変動はあるが横ばいである。
 指標Bについては、平成27年度の実績が5,488件だったものが年々増加し、平成29年度の実績は6,488件となった。
 指標Cの美術館ワークショップ参加者数は、平成28年度より100名程度減っているが、リニューアル事業により2月～3月を閉館した間の影響であり、事業成果は向上している。
 指標Dのスポーツレクリエーションを習慣化していると回答した市民の割合は平成27年度34.3%から34.1%とやや低下している。

③ 他自治体との成果実績値の比較

- かなり高い成果水準である
- どちらかと言えば高い成果水準である
- ほぼ同水準である
- どちらかと言えば低い成果水準である
- かなり低い成果水準である

※左記の理由

指標Aについては、県内に同じアンケートはないが、山梨市での類似のアンケート(H27)では「あなたはこの1年くらいに「生涯学習活動」をしたことがありますか?」という設問に対し、「したことがある」が44%であったのに対し、本市の「実践している」が39.4%であった。指標Bについては、平成28年度県内の市立図書館レファレンス件数平均値の4,867件と比較すると、5,906件で上回っている。(H29年度:6,488件)指標Cについては、県内外の類似比較施設は無いので比較できない。指標Dは類似の市民アンケートを実施している甲府市と比較すると、甲府市40%(H25スポーツ推進計画)に対し本市の5年間の数値を見るとやや低い水準である。

④ 住民の期待する成果水準との比較

- かなり高い成果水準である
- どちらかと言えば高い成果水準である
- ほぼ同水準である
- どちらかと言えば低い成果水準である
- かなり低い成果水準である

※左記の理由

市民アンケート調査の施策別満足度・重要視傾向調査において、「生涯学習の推進、文化、スポーツの振興」についての重要視傾向は43.2%であるが、満足度は33.1%となっている。
 重要視傾向に対し満足度はやや下回っているが、市の文化施設は、40.5%の人が利用しやすいと回答していたり、生涯学習講座、健康スポーツ教室、ファミリーパティンメント教室、図書館事業等の参加者に対するアンケートや市民の声を聞くと満足度が高い。

5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

施策の課題 (現状の問題点)	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
市民団体の活動への支援 (社会教育団体への補助金)の公平性	合併前の補助基準が残っており、事業規模・内容と補助額の差があるので、社会教育団体への補助対象事業や補助額基準を精査し、公平性のある補助事業にしていく。	・社会教育委員の会議の中で検討してもらい意見に基づき見直しをしていく。 ①補助対象事業の明確化 ②補助割合の設定など
・レファレンス技能向上及び資料の充実 ・図書館事業の周知方法	・資料や情報を的確に案内できるサービス機能の強化 ・調査・研究のための必要な資料整備 ・読書普及のための活動の充実及び情報提供の強化	・レファレンス技能向上のための職員研修を行う。 ・レファレンス資料及び地域・郷土資料の収集・整理を行い、市民に提供する。 ・ホームページや広報の他、様々な機関を通して事業のPRを行う。
・美術館ワークショップ事業に係る周知方法と対象者の拡大	・時代に即した新たな広報伝達媒体の整備 ・中学高校生、子育て世代を対象とした事業展開	・美術館単独ホームページやSNSの構築並びにサポータークラブの設立や既存美術サークルなどとの連携を図り、リアルタイムな情報を提供する。 ・美術館全体としての戦略的な広報宣伝計画を立案し、多角的な周知活動を行う。 ・中学校、高校の部活動との連携を図る。 ・子育て支援団体との共同事業連携を図る。